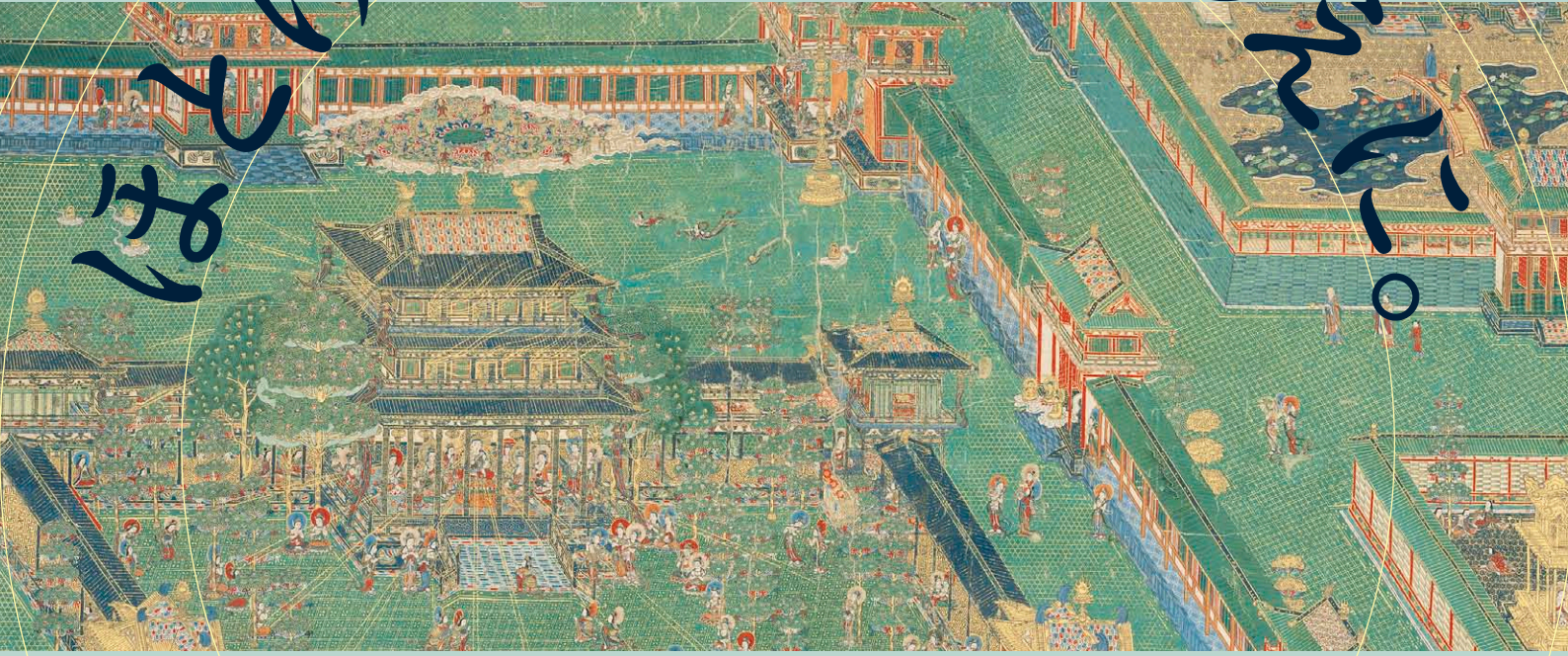


Buddhist Teachings, for All Eternity
Masterpieces of Sacred Paintings

ほとけの教え、とこしえに。
—仏教絵画名品展—
コレクション展



この展覧会は、釈迦如来、阿彌陀如来、大日如来、未来に如来となる弥勒菩薩、そして現在と未来を結ぶ羅漢を中心に、仏教絵画の名品をご覧いただくものです。

古代インドに生きた釈迦族の王子シッダールタは、静かな瞑想の末、悟りの境地に至ります。悟りを得たものを意味する「如来」の誕生です。

釈迦は、死の間際、集まった弟子たち（羅漢）に命じます。これより56億7千万年後に、兜率天で待機している弥勒菩薩がこの世に現れ、弥勒如来となる日まで、この世に生きて仏法を守りなさい、と。すなわち羅漢は、現在と未来の仏を繋ぐ聖僧です。根津美術館が所蔵する「仏涅槃図」「兜率天曼荼羅」に加え、常盤山文庫が所蔵する「釈迦三尊十六羅漢像」（19幅）を展示いたします。

一方、密教は、時空を越えた絶対的な真理である大日如来を生みだし、すべてのほとけは大日如来が姿を変えて現れたものであると説きます。祈りの儀式によつて、この世でのさまざまな願いを叶えるほとけたちが人々の心をとらえたことは、「金剛界八十一尊曼荼羅」（重要文化財、鎌倉時代）の豊かな世界にみることが出来ます。とはいえ、この世は逃れられない苦しみで満ちあふれています。

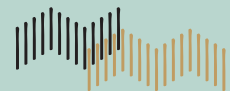
来世に、阿彌陀如来が住む西方浄土に生まれたいと願う浄土信仰が、人々の心に深く根をおろしたことは、数多く制作された浄土図や来迎図が物語っています。

ほとけの教え、とこしえに。—時空を越えて遍在するほとけたちの、深淵な信仰世界をご鑑賞ください。

2016年2月27日(土)～3月31日(木)

【休館日】 毎週月曜日、ただし3月21日(月・祝)は開館し、翌3月22日(火)は休館。

根津美術館
NEZUMUSEUM



ほとけの教え、とこしえに。 — 仏教絵画名品展 —

曼荼羅 ほとけと花で満ちあふれる悟りの世界。

重要文化財
金剛界八十一尊曼荼羅
1幅 絹本着色
日本・鎌倉時代 13世紀
根津美術館蔵



(いずれも部分)

『金剛頂経』の原理を表した金剛界曼荼羅の核心部分、「成身会」の曼荼羅。人の心が、どのようにして大日如来の境地へ達することができるか、つまり即身成仏の過程が、整然と配置された81体のほとけたちによって図解される。

十六羅漢 個性豊かな十六人の聖僧たち。

重要美術品
釈迦三尊十六羅漢像
19幅(左より第8尊者、第15尊者) 絹本着色
日本・鎌倉時代
13-14世紀
常盤山文庫蔵



神通力でこの世に生き続ける羅漢の図には、身体表現に長寿をことさらに強調したり、猛獣を手なずけるなどの霊験が描きこまれる。

釈迦如来 時代に、人に寄り添う仏祖の肖像。

釈迦三尊像
1幅 絹本着色
日本・南北朝時代
14世紀
根津美術館蔵



赤い衣をまとった釈迦が坐す蓮華座は、花弁を広げてたわわな慈をみせる。執拗なまでに刻んだ衣文の表現など、中国の作風が顕著な作品。

兜率天 光まばゆい弥勒の天宮。

兜率天曼荼羅
1幅 絹本着色
日本・南北朝時代
14世紀
根津美術館蔵



未来に如来になることが約束された弥勒菩薩が、兜率天に住まう様子を表す。堂のなかに坐す弥勒菩薩を、菩薩たちがとり囲み、その体や上階に置かれた宝珠が金色の光を放つ。緑や青の彩色に精緻な截金文様が映える優品。





あみださんぞんらいごうす
阿弥陀三尊来迎図
1幅 絹本着色
日本・鎌倉～南北朝時代 14世紀
根津美術館蔵

現世で善い行いを積んだ者には、臨終のとき、西方浄土から阿弥陀如来が迎えに来る。乗雲の阿弥陀三尊を表す典型的作品。



重要文化財
ほっそうまんだら
法相曼荼羅
1幅 絹本着色
日本・鎌倉時代 13-14世紀
根津美術館蔵

仏教の祖・釈迦を中心に、法相宗の教えが、弥勒菩薩から、インド、中国、そして日本の高僧たちによって継承されたことを示す。

同時開催



だいりびな
内裏雛
1対
日本・明治時代 19世紀
根津美術館蔵
竹田恆正氏寄贈

髪型や衣裳にいたるまで公家の札式を忠実に再現した「有職雛」と呼ばれる雛。美しい装束と、京雛らしい優しい顔立ちが魅力です。



かいおけ
貝桶
1対 木胎漆塗
日本・明治時代 20世紀
根津美術館蔵
竹田恆正氏寄贈



貝桶の中には、美しい絵が描かれた小さな合わせ貝を収めています。明治45年(1912)に明治天皇皇后両陛下より拝領した雛道具。

旧竹田宮家のおひなさま

展示室5



ゆきやなぎでちやいれ
雪柳手茶入 銘 雪柳
瀬戸 1口 施釉陶器
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

胴部に幾筋にも分かれて流れる黄釉を、柳の枝に春の雪が降り積もる様子に見立て、「雪柳」の銘が付けられた華やかな茶入。



ひだすきつるくびはないれ
火樗鶴首花入
備前 1口 無釉陶器
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

たつぷりした胴と、僅かに傾いだ頸がおおらかな花入。白い素地が、火樗と呼ばれる赤く発色した藁の跡を、鮮やかに引き立てている。

春情の茶の湯

展示室6

明るい日差しのもと、花木が芽吹き、生命力溢れる春の情景。この季節にふさわしい華やかな茶道具約20件を取り合わせています。

関連プログラム

講演会

「浄土と救済のかたち」

日時 3月19日(土)

午後2時～3時30分

講師 泉武夫 氏(東北大学 教授)

会場 根津美術館講堂(先着130名)

〈申込方法〉

当館ホームページの「イベント情報」の申し込みフォームまたは往復はがき(1講演会1参加者に)き1枚にて、参加を希望される展覧会名・プログラム名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館 講演会係宛にお送りください。
申込みは先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

スライド レクチャー

日時 3月5日(土)「釈迦のすがた」

3月26日(土)「羅漢の美術」

午後1時30分から約45分間

講師 白原 由起子(当館 特別学芸員)

*会場はいずれも根津美術館講堂 学芸員がスライドを用いて説明いたします。(先着130名)

※講演会、スライドレクチャーとも聴講は無料ですが入館料をお支払いください。

リリース・広報のお問合せ

担当: 所、村岡、羽田

Tel. 03-3400-2538 (直) Fax. 03-3400-2436

E-mail: press@nezu-muse.or.jp

開催概要

展覧会名

コレクション展「ほとけの教え、とこしえに。」
—仏教絵画名品展—

主催

根津美術館

開催期間

2016年2月27日(土)～3月31日(火)
午前10時～午後5時「入館は午後4時30分まで」

開館時間

毎週月曜日、ただし3月21日(月・祝)は開館し、翌3月22日(火)は休館。

休館日

一般1000円(800円) 学生800円(600円)

入館料

* (内は20名以上の団体料金 中学生以下無料)

前売券

一般900円 学生700円

アクセス

1月9日(土)～2月14日(日)「松竹梅 — 新年を寿ぐ吉祥のデザイン—」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売。

住所

地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道) 駅下車 A5出口(階段)より徒歩

お問合せ

8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分

ホームページ

〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1

TEL

03-3400-2536 (代表)

http://www.nezu-muse.or.jp

(日本語・English)

次回展

特別展

国宝 燕子花図屏風

2016年

4月13日(水)～5月15日(日)

『伊勢物語』から発想された「燕子花図屏風」を中心に、文学と関わる作品を厳選します。



国宝 燕子花図屏風(右隻) 尾形光琳筆 日本・江戸時代 18世紀 根津美術館蔵